

実践記録

77

シリーズ

ふるさと加治川再発見！

～まちづくりワークショップを開催して～

加治川村教育委員会生涯学習課 主任 吉田 雅則

1 はじめに

加治川村では、生涯学習課で把握している人材やソフト的なノウハウと建設課のもつ事業や予算を組み合わせ、合併前に地域を見つめなおし、合併した後もこの地域の個性を活かしたまちづくり、地域づくりにつなげられるように、行政と住民が協力して地域の未来像を描くまちづくり講座を、県内外で活躍している清水義晴さん・堀昌子さんにコーディネーターをお願いし、開催しました。

2 まちづくり講演会

平成15年3月に、清水義晴さんが全国で関わってきた事例を通して、まちづくりの手法、楽しさ、大切さについて講演をいただき、その後参加者から、村の宝ものと思う意見を村の地図にプロットしていくという講演会を開催しました。用意した地図にいっぱい宝ものがプロットされ、何もないと言っていたのが嘘のようにたくさんの宝物があり、自分たちの村の豊かさを実感しました。



グループワークの様子

3 私たちの宝ものワークショップ

平成15年6月から、講演会でプロットした宝もののほかに、見つけ出していない宝ものを発見し、それを活かして村の未来像をデザインすることを目的に3回のワークショップを開催しました。

第1回目は、村内めぐりを行い参加者自らの目で宝ものを探しました。そして「村の人を知る」ということで、その後、村内で活躍の様々な分野の人を呼んで、そのこだわりを発表してもらいました。そして、その日見たり聞いたりしたものをもとに、グループごとに「宝ものマップ（現状図）」を作成しました。

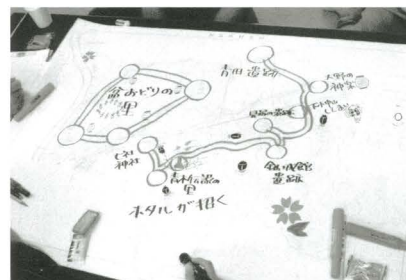
第2回目は、前回作成した「宝ものマップ」をもとに、「加治川村の未来図」を作成しました。

第3回目は、前の2回を振り返り、実現可能な将来像をみんなで描きました。

- ・村全体が総合学習の場
- ・桜とホテルとコシヒカリによる村づくり
- ・加治川村の宝「大峰山」

という、三つのテーマの将来図が出来上がりました。

加治川村のよさである自然、人、文化等、たくさんの宝ものがあることを認識しました。そして、これら結びつけることによって、いろいろな未来像を描くことができました。回を追うごとに、参加者の目がキラキラしていく姿が印象的でした。また、自分自身がこの地域、そしてここに住む人たちのすばらしさを知ることができました。



作成中の未来図

【参加者の感想】

- ・蛍の里づくりや桜並木復元、大峰山のボランティアガイドなど先駆的に取り組んでいる人が多く、頼もしさを感じた。
- ・いろいろな発見がたくさんあった。村民の暖かさも知りました。
- ・加治川村がピカピカに光って見えた。

4 農村振興整備事業ワークショップ

平成15年12月からは、私たちの宝ものワークショップで作成した未来図を、建設課の行う農村振興整備事業で実現するため、引き続き、行政、小学校の先生、地域の住民、設計コンサルタント等の多種多様な人たちが集まり、引き続きワークショップを開催しました。ここでは、事業予定地を実際に歩き現地を調査し、課題を明らかにして三つの構想図を描いて、3月に村へ提案書を提出しました。現在、この中から一つのプランが事業実現に向け、動き出しています。

5 おわりに

加治川の地域づくりは、今やっと「芽」が出そうなところにきました。合併した後もこの地域に住む住民が主体となって活気ある豊かな地域を築き、そして大きな「花」が咲くよう取り組んでいければと思います。